

中原議員再質問

学校統廃合だが、地域の人はこちら言っていた。「地元を知らずに勝手に教育委員会が決めるな」と。それから井原小学校の地域の方からも話を聞いたが、ほんとに地域は、教育長も行って評価していると言ったが、評価しているという言葉で表現できないくらい地域を愛して、地域で生まれた子どもたちを我が子として顔を全部わかる、この子はどこに住んでいて親はどのような人で全部わかるような、そういう人間関係が出来ている。そういう力は小規模校ならではの力だと思うし、過疎対策を防止する手立てを何もとらずにとりあえず子どもの人数は少ないのであんなところは学校をなくすよというのはあまりに乱暴だと言っていた。そういう声をもとに今5つの小学校はそれぞれ陳情されたり要望書を出したりして統廃合をしてくれるなどというを出しているが、この声にどう答えられるのか聞きたい。

それと先ほど午前中の太田議員の質問に教育長が市民を不安に陥れたというふうに謝罪されたと私は記憶している。そうであるならいったん取り下げて、クロスセクションでも話をしていないわけだから、もう一度取り下げてクロスセクションで学校をなくしたあとどうするのかを含めて議論されて、これは再検討が必要ではないかと思うがそのへんの答弁を聞きたい。

それと望ましい適正配置だということでも小規模校をなくすというが、望ましい適正配置というのであれば大規模校を小規模にする、適正な規模にするという方向も適正なうちに入るのではないか。小さいものをなくすだけの適正配置はおかしい。小学校では5校が子どもたちが1000人を超えている。この少なくとも4つの1000を超える子どもたちの学校を500にするのだ、適正な規模にすべきではないのか。そういう考えはないのか伺いたい。

教育長答弁

学校適正配置の件であるが、午前中の答弁で申し上げたように、この学校適正配置はそもそも何のためにやるのかというと、あくまでも子どもたちの教育環境をどうやって向上させていくか、どうやって保っていくかという視点で教育委員会は検討してきたところである。クロスセクションを含めてこのまちづくりとか地域振興という視点での議論がなかつたのではないかという指摘が午前中もあったが、検討して具体的な校名を決めるまではどこをどうするということがまだ対外的に公表できないので、そういう意味で地域を特定した議論というのは深まりようがなかったのが事実、実態である。今回はこうやって素案として公表させていただいたので、これから地域からもご提案をいただきながらどういうふうな形でこの計画を進めることができるのかという議論を深めたいと思っている。

それから、大規模な学校こそ分離をすることについて、今年は春日野小学校ということで山本小学校を分離するし、続いて瀬野第二小学校の分離も着手するというところで、学校の規模の適正化は大きいほうも小さいほうも同時に進めていく必要があるということで進めていく。